二十四孝絵抄

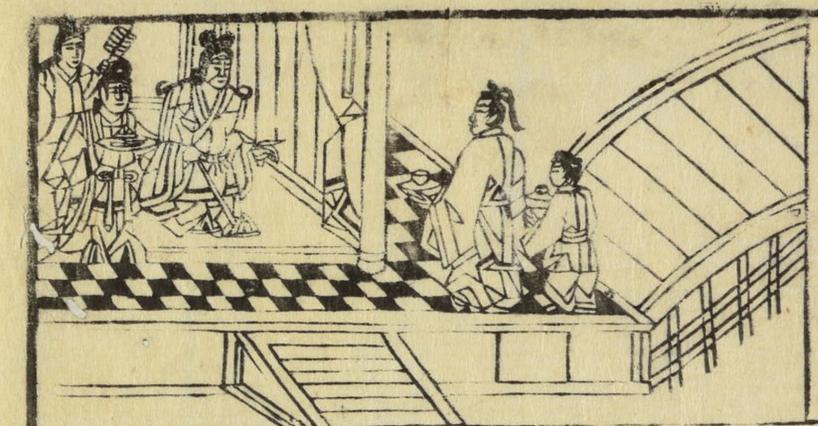
松會校

5529
No.1389
1656

大舜

隊々耕し春象份々として耕し草翁
嗣し堯宝位に孝感動天心

大舜はいにしへ[illegible]の人也父の名は瞽瞍
といふ母は一時[illegible]
世[illegible]ひとあるごとくていとこ[illegible]
世[illegible]大舜いとこすし孝行とていとせりぞ一所歴山
と云ふ[illegible]
大象[illegible]
とらさきを[illegible]
其[illegible]天下の[illegible]
つ[illegible]
英[illegible]堯王[illegible]舜[illegible]
[illegible]
と[illegible]



漢の文帝

仁孝除天下魏々冠百王
漢廷事賢母湯茶必親嘗

漢の文帝の漢乃ち祖父高祖の子也いまだ紀元前
とバ極ゆえ孝行也万代食
事をまいらせらるゝ時ゆまりけみりしさこう免
ろこゝろ日乃君をあまくこゝしまれもぢみりて
ほど仁義をおこなひ孝行なるゆゑ
陳平周勃をしりぞけ王をまつりこせ
ゆとゝれ漢の文帝やゝ治りこゝろに孝行乃
乃至一人ゆるゝ下万民ゆるゝ
どもあるこゝろひんゝ也と高と
じきたのこゝろ四百余列天子法ゆゑ
きのほしゝ
ほどに代をゆくこゝに民をやもくこゝ

孟宗

字恭武
或子恭

湘潭州風寒蕭々竹数年
須臾春筍出天意報平安

孟宗幼少のときゆゑ母をこゝろ
ありけ母年老て病ゆゑ
ひとゝびとゝりけ
事ありけ
まさに宮ゆゑ
天道の
さにゆゑ
ちゝ
ゆゑこゝ
母よあ
をいこゝ
ゆゑ死ん

丁蘭

刻木為父母孫客至則動容言語孫子姪聞早孝其親

丁蘭ハ河内の野ものと云ひの人也十五ゝ母をうしなひ
それ永わかれ年成の間ハ母のゝこりをおもひ木像をほりて
そなへ人のこゝろあるごとくせり千蘭か妻ある和のゝ
ものに矢をもつてその木像のまなこをゝこゝろみしに
くるしみをうんるがれて二目をもつぬきはなちぬ
りしらあをゝ力ゆてこるとゝろやうになりて血ながるる程
よ驚きてわびしもゝ後ゝ千蘭をさとゝこにをひ木
像をたゝ道へうつしをいて妻より三年まひしゝ後させ
られど一夜の間よ面目のおもゝして木像みまりら
間へ入りてあるもそれをもしてゝ母そのるとも
其像の首ゝ後ゝひるゝ血が模よ不思議あるゝ
おもゝ和にうゝくゝあるハあゝひまくゝ流るゝあるへし

閔子騫

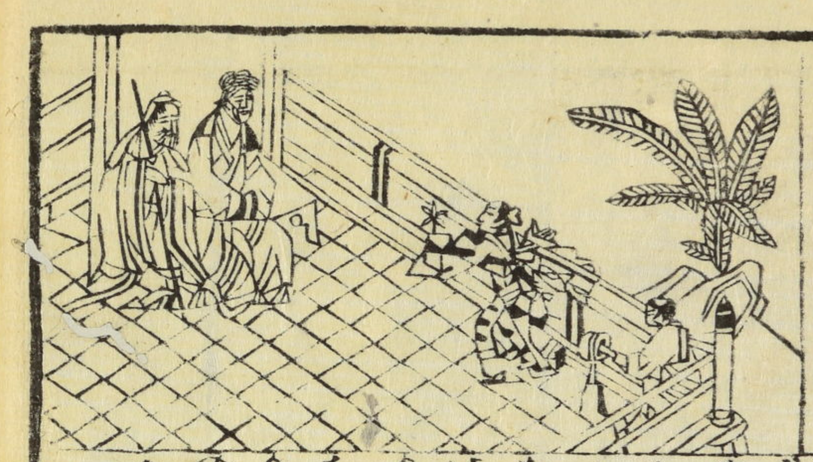
閔氏有賢良何曾然脫娘
孫母在三子孤陋寡

ゝゝしきんてとゝ母をしゝ母ゝ又又義
をとりとめそゝ人の母ゝ我ゝをゝ
くもひしてきゝをゝ子をゝ孤ゝ
ゝてゝゝ孤ゝ
ゝゝ閔子騫ゝ
のゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

曾參

母指嚙て指に傷 児心痛して不安 負薪晚来 背肉孔慈情深

曾參あるゝ時山中へ薪をとりにゆきしに俄に雨降りて母曾參を
おもふゆへ心痛して家へ帰りてみれば指嚙て指傷
どしけるに曾參山に薪をとりひろうるに俄に雨降
りぞろ曾參山に薪をとりひろうるに俄に雨降
りぞろ曾參山に薪をとりひろうるに俄に雨降
りぞろ



老萊子

戯舞学橋廻春風動孫衣
双親聽口笑喜色滿遊闈

老萊子は楚人にして孝行の人なり。七十に成て親の前にて子どもの様に成て舞ひ遊び、親の為に衣をさしておさなきこゝろをもとりて、やがてこゝろのまゝ成ときは、あるひは親の為にくるくやうにあるべきなり。

姜詩

舍側甘泉出一朝双鯉魚
能知事母婦更孝於姑

姜詩は母の為に江の水を汲のんでくらしひとあるいは鯉を得ん事を願ひ、姜詩は母の為に孝行なる人也。母は

唐夫人

孝敬崔家婦乳姑晨昏温凊此恩云云報孫得子孫如

唐夫人ハ高麗せめ。長孫夫人年さかりにありざれば。ちゝ乳をつくめ或ハ
ねさゝとにつゝ。甚だくるしけれ。ども乳をつくめ或ハ
ゆりかゝ時長孫夫人自づからひつきてばさひハ死
せんとあり。ひ二つ一家をあつめていつゝ事ハ。ひつゝあ。
唐夫人の数年孝行を勤せしてど死せん
うゝ。我ハ孫ひ夫人の孝義をまうよ
てあるあらば。ひ求を盤昌をへしといひ
ゆりかやうにまうとあひ孝ありあるハ古今まれ
あるとして人みあこれをあめありとさまれ
やうでもくいそぎ。ふそんんじやうを感あるさまま
つまとあくおりたるまとやし

楊香

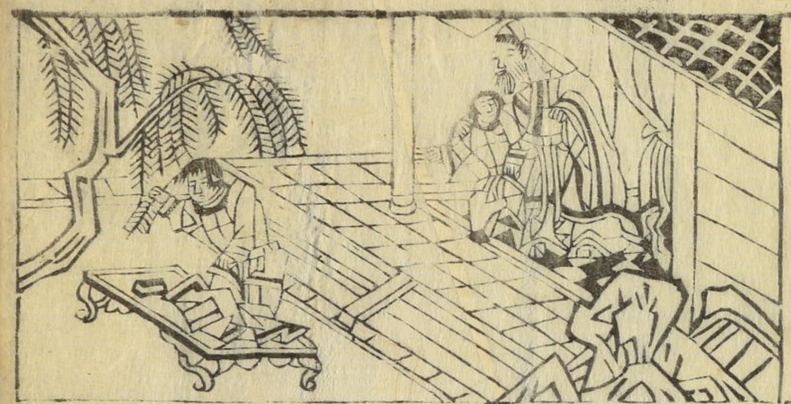
深山逢白虎勇力搏腥風
父子俱免難脫身後口中

楊香ハひとりれ父をもてるに山中へ行
ちにぱうちまれあく虎ハ。楊香父の命をう
ありむ虎ハ殺されて。虎をあひはくんやし行ひを
まてもあくあざるはとにのはありれ殺あのこあひ
ばかりハわう命を虎よあくへ父をあまを追へ
さーをかくしていのまけまばさはかをあそれ
とやひまひはひけるまやとまでたけのまくるちはて殺
くくそんむーーー虎傷ゆり虎をさ、へくゆ
あのとを死はけまば父をまに虎口のあんをま
ぬんぱくがるく家ゆ殺ゆるあるとこれひと
角に孝行のあるあるこしあるあるやうに
さどくをなくるを感あるべし

董永

漢文帝方孔天姿而上德
織縑償債孝感安和名

董永いとけなきより母にそなれ家貧しく
常に人のやとわれ給ひんをもとめて
母を養ひけるが母病して死せんとす
あせにあをいて葬礼をとのへられず
こゝにひとりの男ありこの時ちゝにとられて葬礼を調
十数よりの男ありこの時ちゝにとられて葬礼を調
永が書にぬべしとて手ずから一巻の書をあたへ
ありて永が孝にめでゝ
織ひめ来りて永が妻となりて天帝の織ひめ
ひめ来りて永が孝をうけて天帝の織ひめ



董永

兒童 温衾 懷夏 天和 孤涼
黄香八歳 孝子 織女 古 黄香

母をうしなひ永が孝をうけて
母をさなくして
てさむきをうけ
あつきをうけ
いひ人あつまりて
あるとき
孝子の

王裒

慈母恂雷而魂宿夜驚
阿香時震到墓遠子廻

王裒ハ常ニ法ヲ云フの人なりけり父ハ王祥ニ義子なりしの事にしたがひて歳ハ十二ニ成ル時ニ注ヲ受ケ学ビ終リ成ル父の墓所ニおいてぴさまの法ニ礼拝ス礼拝せざりしなり父の墓所ニおいてぴさまの法ニ礼拝してゆくの事に礼拝ス礼拝ス礼拝ス

朱買臣

七歳生離母　後高五十年
一朝相見面　孝親動皇天

朱買臣八七さいのとき父母をうしなひ
ちまたにそのはゝをとうくまつりわけまたば事
をあげ孝行なれどこと津のにあそばるゝ
年ありあるべしとなげくに高官にのぼりと
いへども官深くとゝもにて書よとゝもにて祭
やいふべしこゝろざしをあらはしてはゝをあそば
てまつりとてぞけるうちの血をとりこゝ
給ひ給ひ給ふく天道へ祈どう者てゆるさ
まばゝ給ふ給ふのゝ義なりばあるべし
つねのゝ孝ゆるなり

刻子

老親思鹿乳　身掛褐毛衣
若不高拝語　山中第一奇

刻子ハ親のために命をもてそんとしたる孝行
なるゝ人也其故ハ父母親ふ眼をとりこゝ
行ゝ月の業をなりとて鹿の乳をのみ
里養なるゝ志をもれば親ゝ孝ゆるなり
ねどこさてあるまゝ山かりゝ鹿の中
猟人見とんて実の鹿ぞとんでしちゆてけんと
里其時刻ゝ見ハ実の鹿よりあらじ刻ゝ云ゝ
ゝ親の目をとりあらべくゝ偽て鹿ゝくゝとゝ
勢をあをてゝいひけるバ猟人地ぐるして其ゆゝと面
をゝ張ゝ孝ゆの志深ゆゝ矢をのゞ
て猟ゝゝと杖人やして鹿の乳と求まばゝていそ
ゝ得さゝべゝ孝ゆの志ゆゝ孝ゆの志ゆゝ

蔡順

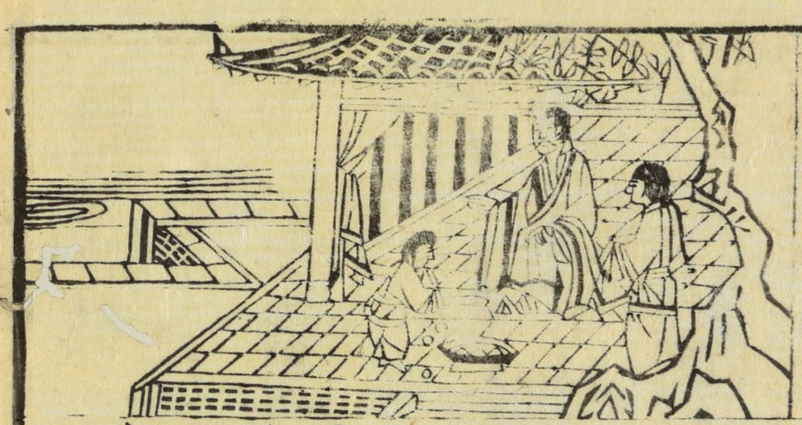
黒椹奉親闔啼飢涓蒲衣
赤眉知孝順牛米贈君帰

蔡順ハ汝南の人なり王莽といふ人の時分に天下大に乱て飢饉おこりしけるに母親あり公子のもとに行ひろひけるに熟しいたりて母と熟せざるとを分て母に食しめ二子あり兄は黒椹弟は赤眉なり二子の母を養ひて孝順なりしかるに母に牛米を贈る人あり母これを受て我あめるとき人にあたへ給ふ紅不孝の者なれども恥じて来二升と半れ是一升あるべしとて去り給ふ米を残母ありあるべしとてあるとき常に食をとれば二升のうつわをもてあるとき見孝順のあるべきなり

庾黔婁

到孫未行日椿庭逢疾深
終持代死北堂留其心

庾黔婁ハ南郡の時分の人なり一子あり官人なり孫あり日夕とかくさるに忽ちに病疾をもてくるしみ給ふ孫の
やまひ深くなりやあり黔婁醫師にあらずとこれを
くすりやあり黔婁醫師にあらずとこれを
たすけ給ふ病人のあんとをあらくみ
らばよろしかるべしとやうやうとそれば黔婁やまひ
あるとき病人をまねばおちいひようす
ばかりにいのりてあらりにあんとを
いのるとやう



陸績　字公紀

孝感皆天性人間六歳児
神中懐緑橘遠母報合餡

陸績六さいの時、袁術という人の所へまねかれ
ぬ。陸績ちゝのために、橘をいさぎよくせり。陸績
橘をこの丸て、袖の内へ入れて、遠郷へ
帰る。袁術、礼をいはんとすれば、せりを
袖へ入れて、礼をいはんとすれば、せりを
とらんとて、ひざまづきて、ころびたるを、
袁術、陸績に問ハ、なぜ、せりを
とらんとて、ひざまづきて、ころびたるを、
陸績、答ハ、我ハ遠郷に、ちゝ
のあるゆへ、古今まれなる孝子
なりとて、天下の人、皆、孝子
と、ほめたり。

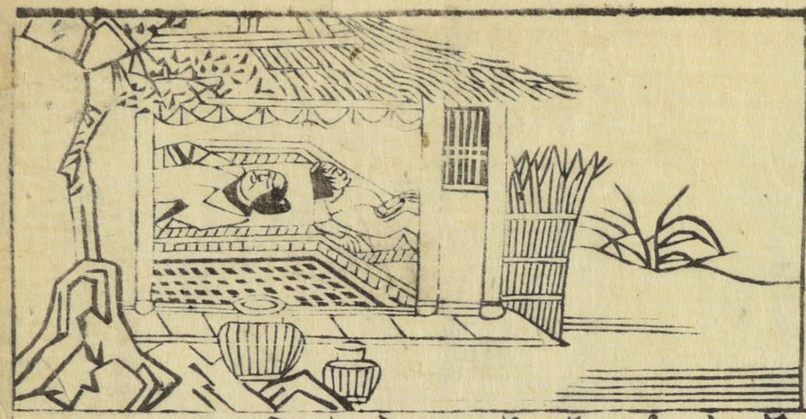
張孝　張禮

偶値凶歉　人皆有兄弟　代裏云　瘦肥
張孝張禮、兄弟也。世乱さるゝの時、人々多く飢
と養ひし。菓子ひとつ、ひとつ、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ
ぬ。張孝、張禮、ちゝ

田真　田廣　田慶

海底紫珊瑚群芳海不如
春風花滿樹兄弟復同居

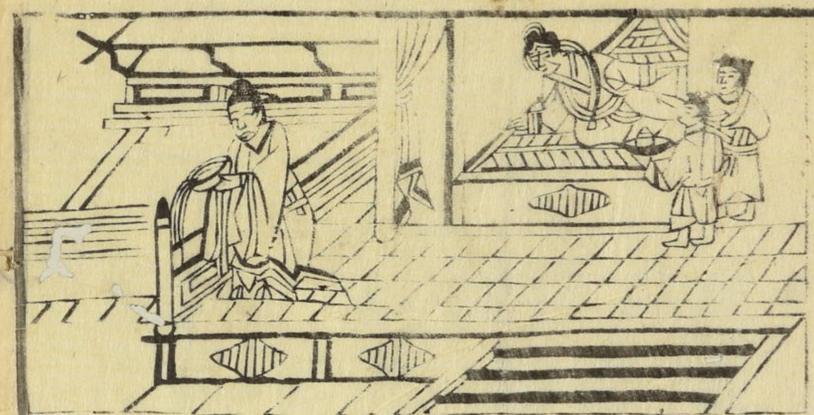
はじめ三人ハ兄弟也親よりくまて後親のさいそうとして三
りよりさくとわるくなる屋敷にしふ荊樹とて枝葉
ちりをはらさるれる木一ちんわりもとをこのまて
けて礼をしとて花をもぶし三人せんさくけるを聞
でうりのくれをなくしとて其ヲ〻いらられ
むさのまてはりへのあるを係よりれさり田真
見をあんしくいまあんあるてさりわるくんとこへ
れ残ものそりはしとに人しして見ると
ゑまへさるべしやとそうこだしてあれられ
でもくしてうびをやのどくさりへあるも也



呉猛

夏夜無帷帳蚊多不取拒
恐渠膏血飽免使入親闈

呉猛八歳にして孝なる人なり家ひまなく
くらくぶ海りんふあるこのもとにされども
りよりはりけれども帷帳とす呉猛ハ思
ありて蚊ありて親りさ多わりあるを
よりて蚊とをとらせ蚊とあるをとら
ぬやをたまとんとびをあるもの河とおるもを
らぬくこにるもと我身を蚊りらせやのり
さへ蚊りもあるにしてはりへあるやるり
ようをする紀をのくやに孝ありへりまあ
りもしまりどもあるも



山谷

山谷ハ宋の代乃詩人也今に残りて活人の祖
師といふべし人をしておのづから書を好むといへども
つくるの筆とわかひらくきくれさるの時こそ
うるはしをあらはすなり久のうつ
てかつこうるるの一生涯一をもつて
当るなれば世の法れ者はとうしてうまき
あるべきそこの人の者毎天下にあらはれる
世なるもとは山谷乃事なり人びとうるとて名の
出るこそ人也

明暦二閏月吉日　松會市郎兵衛　板

元禄年中

松會板

宇良にて黒川喜右衛門

昭和三十六年七月十七日名古屋藤園堂刊行
二十四孝絵抄」と見る別の書は
七月松會市郎兵衛板とある本書は印刷
不鮮明ゆえ元刷板であるから購入
二十四孝物の最古板である

本書三部
左記年号や板元明記、印刷し鮮明入。〇円也

明暦二閏月吉日　松會市郎兵衛板

1998.3.20 一括 12000-

1.2